

ブルーフラッグ認証ビーチの整備実態に関する研究

—認証団体・FEE Japan を対象とした調査—

Research on the Actual Condition of Maintenance of Blue Flag Certified Beach

- Survey Targeting FEE Japan -

○山田 栞¹, 桜井 慎一², 寺口 敬秀², 山田 匠人³*Shiori Yamada¹, Shin-ichi Sakurai², Takahide Terakuchi², Takuto Yamada³

There are international environmental certifications given by achieving the standards of water quality, environmental management, environmental education, safety and service at beaches and marina. Among them, the variety and quality of services received by users visiting beaches and marina. There is a Blue Flag certification as a program to show. It is given by achieving the standards for water quality, environmental management, environmental education, safety, and service. The significance of acquiring it is the sustainable development of the surrounding area where the beach is located. Therefore, in this study, we will understand the criteria of the blue flag and clarify what we are aiming for, what we are aiming for, and what we expect from a hearing survey of FEE Japan.

1. 研究背景および目的

ビーチやマリナーにおいて、水質、環境マネジメント、環境教育、安全とサービスの基準を達成することで与えられる国際環境認証がある。その中で、ビーチやマリナーを訪れる利用者が受けるサービスの多様性や質を示すプログラムとして特定非営利活動法人 FEE Japan (The Foundation for Environmental Education) が行うブルーフラッグ (以後、BF) 認証があり、ビーチや周辺地域の持続可能な発展を促進させている。本研究は、FEE Japan を対象としたヒアリング調査により、BF 認証の基準や実態について明らかにすることを目的とする。

2. 調査方法

特定非営利活動法人 FEE Japan を対象に Zoom でのヒアリング調査を行った (表-1)。

3. 結果および考察

3-1. 日本での BF 認証状況

世界では 49 の国、4820 か所で BF 認証がされているが、日本での認証数は、本須賀海水浴場、由比ガ浜海水浴場、片瀬西浜・鵜沼海水浴場、若狭和田海水浴場、須磨海水浴場の 5 か所となっている (図-1, 表-2, 表-3, 写真-1, 写真-2)。日本における BF 認証の申請数は 2016 年から 2021 年現在までで 5 件となっており、申請した全ての場所が認証されていた。

認証時期を見ると、由比ガ浜海水浴場と若狭和田海水浴場は 2016 年と最も早く認証されていた。若狭和田海水浴場については、2014 年から BF 認証を希望しており、2~3 年準備を行ったうえで認証されたとのことであった。

表-1. 調査概要

調査対象	FEE Japan
調査方法	Zoom によるヒアリング調査
調査内容	ブルーフラッグの認証について、期待することなど
調査日	2021 年 9 月 10 日

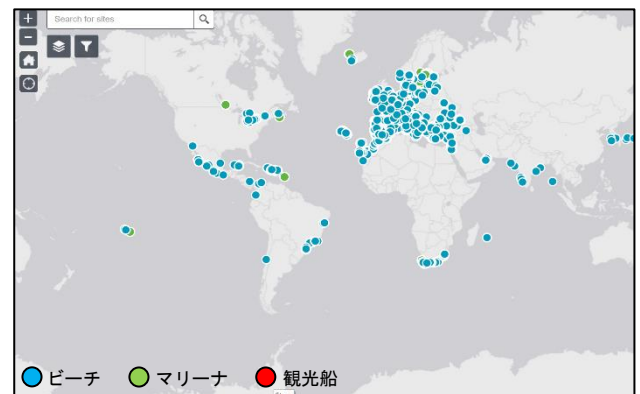


図-1. 世界における BF 認証場所

表-2. 世界の BF 認証数 (上位 10 か国と日本)

順位	国名	認証場所			計
		ビーチ	マリナー	観光船	
1	スペイン	614	96	2	712
2	ギリシャ	545	16	6	567
3	トルコ	519	22	10	551
4	フランス	410	115	0	525
5	イタリア	416	81	0	497
6	ポルトガル	372	16	11	399
7	デンマーク	168	16	0	184
8	アイルランド	83	10	0	93
9	イングランド	77	1	0	78
10	キプロス	68	1	0	69
40	日本	5	0	0	5

2019 年認証の須磨海水浴場も審査期間を含め 3 年ほど準備は必要となった。一方で、本須賀海水浴場は、山武市長のマニフェストに BF 認証が含まれていたことで、認証に向けた準備がスムーズに行えたということが確認できた。

3-2. 認証されなかった事例

申請に対して認証されなかった事例は無かった。一部の海水浴場では、初年度の認証時に海までのバリアフリー問題が確認され、次年度までに改善するための計画書、設計図、予算を報告する条件で特別に認証されたが、改善されなかったため認証を表す BF フラッグを取り上げ、改善されてから BF フラッグを掲げることを許した事例もあった。

3-3. BF 認証に関する問い合わせ状況

申請についての問い合わせや資料請求は、2014年から現在までに20~30件あったそうだが、申請には至っていない。ビーチ以外からの問い合わせもあり、観光船からの問い合わせは2件あった。さらに、2021年現在、マリナーからの申請が1件あり、来年度の認証に期待される。

3-5. BF 認証の審査委員

FEE Japan の国内審査委員は9名登録されており、全員が水質やバリアフリーなどの専門家であり、ボランティアとして活動している。

3-6. 審査項目と重視すること

BF 認証の基準は全33項目と多岐に渡る。大きく分けると4つの項目があり、環境教育と情報、水質、環境マネジメント、安全とサービスがある。環境教育と情報では、BF 認証を受けていることや水質、生態系などの情報の掲示義務がある。水質では質測定基準、指標制限値の項目がある。環境マネジメントではビーチの清掃管理、トイレの設置数などがある。BF 認証の審査では、すべての項目が同様に重視されるが、日本においては特にバリアフリーへの対応が問題となる場合があるとのことであった(写真-3, 写真-4)。

3-7. 審査基準を満たしているのか判断できない場合の評価方法

基準を満たしているか書類で判断するのが難しいものについては別途報告書の提出が必要となっている。また、現地審査では、抜き打ちで国内審査委員1名が直接ビーチを訪れ、現地調査を行っている。

3-8. BF 認証更新時の申請方法

BF 認証は1年ごとに認証を取得する必要がある。年によって気象状況などの環境の変動があるため、毎年実施することが重要とのことであった。

3-9. 日本の認証数を増やすために必要なこと

BF 認証数増加に向けて、認知度向上や、認証基準に対応した補助金などの支援が必要という回答だった。

3-10. BF 認証の PR

Facebook, Instagram, Twitter で情報提供を行っている

表-3. 日本のBF 認証場所と初めて認証された年

県名	名称	認証年度	連続認証年数
福井県	若狭和田海水浴場	2016年	6年(2021年)
神奈川県	由比ガ浜海水浴場	2016年	6年(2021年)
神奈川県	片瀬西浜鵜沼海水浴場	2021年	-
千葉県	本須賀海水浴場	2019年	3年(2021年)
兵庫県	須磨海水浴場	2019年	3年(2021年)



写真-1. 海外のBF 認証ビーチ (ドミニカ共和国)



写真-2. 須磨海水浴場



写真-3. 水陸両用車椅子



写真-4. ビーチマット

る。これは、SDGs や環境認証の重要性を広めるとともに、BF 認証を取得したビーチの知名度を上げ、協力をしてもらうことを目的としていた。

3-11. BF 認証を日本に浸透させるための活動

FEE Japan はボランティアでの活動のため、認証プロセスだけで手一杯であり、現在は浸透するための活動ができていないのが現状である。しかし、BF 認証ビーチが増えることによって、それに関わった人たちが発信してくれることに期待し、ビーチでSDGsとBF 認証の繋がりを訴えたいとの回答が得られた。

3-12. BF 認証を目指すビーチに期待すること

あくまでも申請に必要な33項目は最低でも整備してほしい項目であり、その他にも環境を改善し、高みを目指してほしいという回答を得た。環境教育活動内容も、基準は5つとなっているがこれも最低限行ってほしい内容ということである。FEE Japan としては、初年度から完璧に整備をしなくても良いとしており、年々向上し、よりよい環境を目指してほしいとしている。BF 認証の基準も5年ごとに見直しをしており、世の中の問題によって変更している。次回の基準見直しでは、ストローや器などのプラスチックの使用、ジェンダー視点、労働条件などが次の基準が取り上げられる可能性があり、BF 認証のハードルは年々高くなってきているようである。

【参考文献】

- [1]特定非営利活動法人 FEE Japan : https://www.feejapan.org/blueflag/japan_beach/, 2021.7.1 閲覧
- [2]BLUE FLAG FEE DENMARK : <https://www.blueflag.global/>, 2021.7.1 閲覧
- [3]BLUE FLAG FEE DENMARK : ブルーフラッグと持続可能な開発目標, <https://static1.squarespace.com/static/55371ebde4b0e49a1e2ce9f6/t/54d8b1b960603222c6ff9d6f2711569397789915/Blue+Flag+and+the+SDGs.pdf>, 2021.8.25 閲覧
- [4]SHONAN VISION : ブルーフラッグについて, 2021.7.1 閲覧
- [5]NPO 法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクト : ビーチマットの導入, 2021.7.17